

# 春日製紙工業株式会社 富士市

## 国産紙ストローの開発で脱プラを推進

所在地 富士市比奈760-1  
 業務内容 紙類パルプ並びにその副産物の製造加工及び販売、山林の経営及び木材の売買、産業廃棄物処理事業



### 概要 取組内容紹介

「地球とともに。」を企業理念とし、環境に優しい製品作りを心がけている。製紙メーカーとして「紙でできる事は紙で」という理念のもと、脱プラ製品開発に着手し、主力商品として紙ストローを展開。

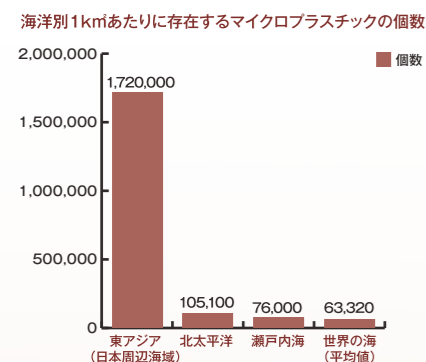


### 環境課題の解決 品質、使用感、意匠性 すべてプラ製に引けをとらない紙ストローを

環境ビジネスとしての注目すべき着眼点

#### 残存プラによる海洋汚染に着目

近年、海洋に残存するマイクロプラスチックの環境汚染が世界的な問題となっている。特に日本を含む東アジア海域の残存プラ量は群を抜いて高い。同社では数年前からこの問題に着目し、先に挙げた企業理念と合致する環境対策の取組として、2018年から紙ストローの開発に着手した。



2015年の調査によると海洋に残存するマイクロプラスチックの数は、日本を含む東アジア海域が群を抜いて多く、その数値は北太平洋の約16倍という大変深刻な状況である。  
 I sobe et al, Marine Pollution Bulletin (2015)

#### 海外製品以上の品質確保を実現

紙ストロー市場では既に海外製が多く出回っており、後発メーカーとしてはそれを上回る品質の確保、さらに、リーズナブルかつ多種多様な製品ラインナップの展開に注力する必要性があった。高い安全性と品質を保つために、全ての原材料は国内メーカーの物に拘り、安定した生産体制を確立するために、約半年間の試行錯誤を重ねてオリジナルの生産機械を完成させた。

また紙ストローが抱えていた使用感の課題(「味の変化」、「唇に貼りつく」、「耐久性が弱い」)も、試作や改善を繰り返して解決した。当初はストレートタイプのストロー開発から始まり、市場のニーズに応じて自由に曲がるフレックスタイプや、長さや口径のバリエーションを増やしラインナップを充実させている。

展望

#### 環境意識の高いユーザーに販路を拓く

後発メーカーのため、既に低コストの海外製品を使用している大手飲食業へのアプローチは難しかった。そこで視点を変え、主にファミリー層を客層とする環境への意識が高い企業に目を向け、県内の観光施設や動物園、カーディーラーなどの販路を開拓した。紙ストローの個包装も自社加工で印字も可能としており、広告媒体になる点も好評である。

また、近年ニーズが拡大しているアルコール検知器用使い捨てストローの販売を開始した。これはR4道交法改正による企業の運転者に対する酒気の検知の義務化を受け、検知器メーカーからの依頼による共同開発にて商品化が実現した。大量の使い捨てストローをプラスチックから紙に変える意味は大きくなっている。2019年の販売開始以来、コロナ禍の影響はあったが、売上は毎年前年比120%程度で順調に伸びている。

### 背景・地域課題 行政・自治体と共に普及をめざす

この取組は、2030年に向けて国の目標である「使い捨てプラスチック製品の累計25%排出抑制」へ貢献するものであり、そのためには行政や自治体の協力を得て、地域住民、一般消費者の国産紙ストローへの理解促進をはかることが重要となっている。今のところ外国製品よりも価格が高くなっているが、国産紙ストローの

市場が広がり売上が伸びていくことで、価格の問題も改善できる可能性が高い。また、日常生活の中で国産紙ストローを使用する機会が増えれば増えるほど、その背景にある環境問題への意識も啓発できる。



### 具体的な取組内容 生産からマーケティングまで社内一貫体制を実現

取組のスタート時、プロジェクトリーダーは現社長が務めており、全社を挙げて新たな主力事業を育てる意志をチーム全員が共有していた。そして環境に配慮した高品質製品を安定供給するために、原料調達、製品開発、生産体制、販路拡大まですべて社内で一貫して行うことを目指した。既に、トイレトーパー事業で生産からマーケティングまでの一貫体制を確立していたことが、紙ストローの取組でも十分に活かされたといえる。

#### 安定した生産体制の確立

●グループ内コンソーシアムで製造機械を開発・設置・管理

#### 優れた品質の確保

##### 加工技術

粘着式写真アルバム台紙製造時に培った、接着剤に関する知識とノウハウを活かし、安全な原材料資材を素早く選定、試作。

##### 耐水性・耐久性

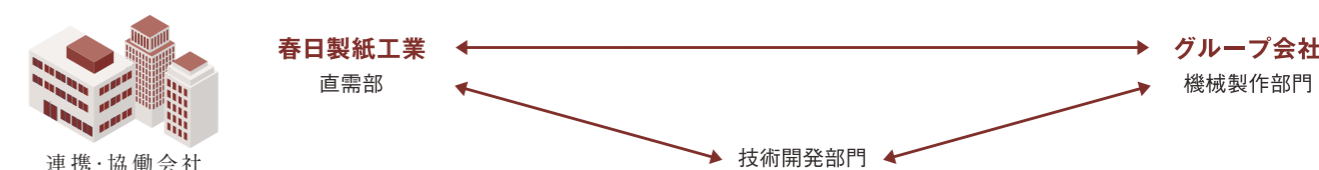
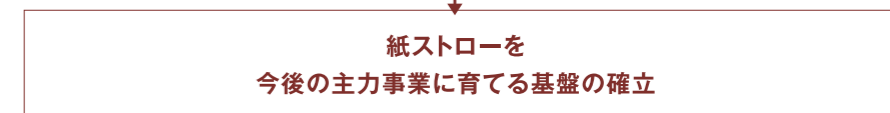
ストロー表面に特殊コーティングを施し、約1時間の使用時間を経過しても、ほぐれたり、溶けることなく使用可能。

##### 使用感

紙の独特の味や匂いを軽減。唇への触感や貼りつきもなく、違和感のない快適な使用感を実現。女性のリップの跡がつかない安全なインキを選定、開発。

#### 新たな市場の開拓

●環境保全意識が高い、国産にこだわる企業へのアプローチ  
 ●アルコール検知器メーカーとの連携



### 今後の活動 紙ストローの回収・古紙再生システムの実現を

今後は使用済み紙ストローを回収し、当社が既に確立している古紙再生システムを活用して、トイレトーパーなどの原料にすることを目指しています。「紙でできるものは紙で」という理想を掲げて、可能なものはすべて紙で作る、使用済みの紙を再び活用する。これこそ製紙メーカーならではの環境保全活動であり、社会貢献につながるこれからのビジネスだと考えています。また紙ストローに加えて、飲料用の紙コップなどにかぶせる蓋もプラスチックから紙への移行を考え、現在試作を重ねています。この取組をきっかけに、将来は紙ストローを中心としたプラ製品に代わる紙製品部門が、トイレトーパー部門と並ぶ主要事業となるよう今後も努力を重ねていきます。

直需部 課長代理 秋山 英範

